

Harmony

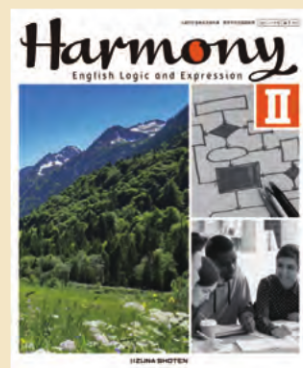
English Logic and Expression I・II

論理・表現 I・II

レベル	基礎
判型	AB判
本文 I	128頁
本文 II	112頁



論 I 716 論 II 715



著者 : 平賀 正子 立教大学名誉教授
 : 伊藤 清 名古屋中学校・高等学校教諭
 : 田中 孝典 静岡県立焼津中央高等学校教諭

鈴木 希明 中京大学特任講師
 川又 克己 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校教諭
 谷口 幸夫 西武学園文理中学・高等学校教諭
 萱原 雅弘 元東京家政学院大学教授
 前中 猛 白陵中学校・高等学校教諭

著者の
メッセージ

高校生に「英語で伝わるよろこび」を！

立教大学名誉教授 平賀 正子

コミュニケーションの実践を通して、文法力、発表力、文章力を育む学習を

母語でも外国語でも、良好な人間関係をつくっていくには、柔軟なコミュニケーション力が欠かせません。私たちは日常のコミュニケーションを、お互いの人間関係をつくるために行っています。あいさつをしたり、自己紹介をしたりするのも、その一環です。また、すでに人間関係ができている相手とも、その関係を維持したり、さらによくしたりするためのコミュニケーションが必要です。

そうしたなか、「論理・表現」という科目を通じて、高校生に、どのような力を育んでもらえばよいのでしょうか。コミュニケーション能力という観点から学習者の力を引き出し、伸ばしていくことが重要ではないでしょうか。文法は、英語でコミュニケーションを行う場合に必要で、最も基本的な要素の1つです。しかし、文法のルールを知っていても、それだけでうまくコミュニケーションがとれるとはかぎりません。円滑なコミュニケーションを行うためには、相手を理解しようとする態度を示し、実際の状況にできるだけ合致した言い方や応答の仕方を工夫することが大切です。むしろ、これは話し言葉でも書き言葉でも当てはまります。このことを学習者が意識すれば、相手に伝わる英語を学ぶことが必要だということがわかり、「通じる」という体験を重ねることによって、人との豊かな人間関係を作っていくことにつながるのです。そして、本当の意味で実用性をもった、コミュニケーションで役に立つ英語学習ができるようになります。

高校生に「伝わるよろこび」を味わってほしい

また、「英語が通じる！」「英語で伝わった！」というよろこびは、強いモチベーションとなり、英語を学習する意欲の推進力となります。そのため、英語指導では、評価の仕方も、ただ単に、綴りや文法があっているといった部分だけではなく、「通じる」という側面から評価することも重要です。それは、学習者に、英語でコミュニケーションを行うことによる成功体験や伝わるよろこびを味わってほしいからなのです。

Harmony English Logic and Expression I・II を編集するにあたって、私たちはこのような思いをもって作業に携わってきました。本教科書を通じて、高校生が英語でのコミュニケーションの実践に触れ、文法形式を理解するだけでなく、「英語が通じる！」「英語で伝わった！」という体験を、たくさん重ねていってもらえることを願っています。